

第4回京都市観光振興審議会

主な御意見

日 時 平成26年9月24日（水）午前10時～正午

会 場 京都市消防庁舎7階 作戦室

○ 目標設定について

- ・ 再び訪れたいという「再来訪意向」や、親しい友人に京都観光を勧めたいと思う「紹介意向」のように、アンケートによる「大変そう思う～ややそう思う」の回答割合が、現段階で既に90%を超えているようなものを100%に近づけるとしても、チャレンジしようという目標設定にはならないのではないか。
- ・ どれだけ達成できたかの結果を見る指標だけではなく、先行的な指標として観光客の動向等を先行して把握する指標を設定し、市民や事業者等の関係者と情報共有することで、不満や残念等に対する素早い対策を行うことにつなげるなどの取組が必要ではないか。
- ・ 京都に来たことがない人に京都を知っていただくことが必要なので、京都に来た人からの評価だけでなく、まだ来たことのない人の京都に対する認知度を目標とすることも必要ではないか。

○ 計画名称について

- ・ 京都市では、今後も引き続き観光振興計画を策定していくので、その都度計画名称を変更するのではなく、「京都市観光振興計画」に計画時期（2020年）を明記する方法にすればよいのではないか。

○ 市民との共有等について

- ・ 京都の観光が今後も発展していくためには、市民の理解や取組への参加等が大切であり、取組内容を広く市民に周知することが必要である。
- ・ 市民が観光客と接することで得られた出来事や体験談などを発信し、観光客が感動した事象等を広く共有することによって、市民の中でも観光に関する理解が広まっていくのではないか。

- ・ 観光客の増加による市内の混雑を嫌う市民も多くいるため、市民に対して観光に取り組む意義の周知や理解を求めることが必要である。
- ・ 計画に掲げた内容を着実に実行していくためには、観光地や観光施設などの観光資源に関わる人たちを巻き込んでいくことが大切である。
- ・ 小中学生などの若年層に対して、早い時期からの観光に関する教育が大切である。

○ 人づくりについて

- ・ 全国の事業者等に対して、京都観光に関する取組の発信をすることも良いのではないかな。
- ・ 「大学のまち・京都」の特性をいかした取組として、修学旅行生が将来的に京都の大学を目指すきっかけを作ることや、大学コンソーシアム京都の夏季講座を活用した観光に関する高等教育などを行ってはどうか。

○ バリアフリー等について

- ・ 東京オリンピックと合わせて、パラリンピックの開催を見据えたバリアフリーやユニバーサル対応等を進める必要がある。

○ 宿泊施設について

- ・ 世界の観光地の例を見ても、観光客が多く来ると混雑するため、京都の受入容量を想定しつつ、宿泊施設の整備を進める必要がある。
- ・ 宿泊施設において、外国人観光客とコミュニケーションが図れるよう、英語での対応等を行うスタッフの配置が必要である。
- ・ おもてなしを体現している京都の旅館等の宿泊施設の魅力を更に発信していく必要がある。